

詩篇 19 篇

「神の完全な啓示」

19:1 天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。

19:2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。

19:3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。

19:4 しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。

19:5 太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。勇士のように、その走路を喜び走る。

19:6 その上るのは、天の果てから、行き巡るのは、天の果て果てまで。その熱を、免れるものは何もない。

19:7 【主】のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、【主】のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。

19:8 【主】の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、【主】の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

19:9 【主】への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。【主】のさばきはまことであり、ことごとく正しい。

19:10 それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。

19:11 また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。

19:12 だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦しください。

19:13 あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。

19:14 私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、【主】よ。

はじめに

今週は、テモテ第一の手紙のシリーズ説教をお休みし、詩篇のシリーズ説教から語らせていただきます。今日学ぶ箇所は、詩篇 19 篇です。

C.S.ルイスは詩篇 19 篇について、詩篇の中でもっとも偉大な詩であり、世界一優れた歌詞だと言いました。

この詩篇が強調しているのは、神のご自身に関する啓示です。

聖書の神は、啓示の神です。

神はご人格をお持ちですから、あらゆる方法で人にご自身のことを伝え、現されます。

詩篇の著者ダビデは、神はご自身を示されると語ります。そして、それは被造物、律法における道徳の教え、イエス・キリストをとおしてだと言います。

今日は大阪インターナショナルチャーチの創立記念を祝う特別な日ですから、この詩篇から語るのに最適な日かもしれません。

この詩篇を学ぶことで、私たちは神ご自身に関する完全な啓示を得ることになります。

もし神がどのようなお方であるか知りたいなら、今日は注意して聞いていてください。そして、プリントもぜひお持ち帰りください。

1. 神は、被造物および自然界をとおしてご自身を啓示される。(1-6 節)

ダビデは現代風に言うなら、「アウトドア系」の人でした。

田舎を出歩くのが好きでした。

もしかすると、もともと羊飼いだっただからかもしれません。

しかし、ダビデは長年サウル王から身を隠す逃亡生活もしていました。

ですから、野外や洞くつで寝なければならなかったこともあります。

おそらく、暗くなったら寝て、明るくなったら起きる、というような生活だったのではないのでしょうか。

朝日が昇るのを毎朝見たことでしょう。

ですから、神が私たちにご自身を現す方法として、ダビデが太陽に注目しているのも不思議はありません。

詩篇 19 : 5-6

19:5 太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。勇士のように、その走路を喜び走る。

19:6 その上るのは、天の果てから、行き巡るのは、天の果て果てまで。その熱を、免れるものは何もない。

ダビデは、太陽を、結婚式を終えて輝いた姿で出てくる花婿や、競走を今か今かと待つアスリートにたとえます。

最近の私はずいぶん早起きで、日の出前に目が覚めます。すると、奈良の山の方から太陽が昇るのを見ることができます。とてもすばらしい眺めです。

ダビデは、神がご自身を現されることをたたえて太陽に注目していますが、私たちは太陽が神の被造物のひとつに過ぎないことを忘れてはいけません。

神の創造には、この地上のすべてのものが含まれます。

動植物、空、水、岩、結晶、さらには、肉眼では見えないほど小さなものも含まれるのです。世界的に有名な生物学者エドワード・O・ウィルソンは、自身の著書「生命の未来」で次のように語ります。世界には約 160 万種の菌類が存在します。アリも 1 万種、花を咲かせる植物は 30 万種、哺乳類は 4,000-5,000 種、鳥は約 1 万種存在します。

ダビデは、世界に関するこのような情報や知識はありませんでしたが、朝日が昇り夕日が沈むのを見るだけで、神の栄光に圧倒されました。

アメリカの有名な聖書学者ウォレン・ウィーズビは言います。

「被造物は、文字のない本である。翻訳を要しないので、誰でも読める。」

神は、被造物をとおして日夜語ってくださいます。

神はあなたに語っておられますか。

世間には、自然界の不思議を認めても、その自然界を造った創造主を認めない人がたくさんいます。

30 年以上前、私が神戸に住んでいたころ、朝早くに起きて近所の大倉山公園で静思の時を持っていました。

すると、公園にいるのが私だけではないことに驚きました。

たくさんの高齢者が公園にいたのです。

けれども、その人たちは木に抱き付いたり、葉っぱに口づけしたりして、自然を拜んでいました。

神の被造物を偶像としていたのです。

ユダヤ人は、天のものを拜むことを禁じられていて、占星術も禁じられていました。彼らは、被造物ではなく、創造主を礼拝していました。

出エジプト 20 : 4-5

20:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

20:5 それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

イザヤ書 47 : 13-14

47:13 あなたに助言する者が多すぎて、あなたは疲れている。さあ、天を観測する者、星を見る者、新月ごとにあなたに起こる事を知らせる者を並べたてて、あなたを救わせてみよ。

47:14 見よ。彼らは刈り株のようになり、火が彼らを焼き尽くす。彼らは自分のいのちを炎の手から救い出すこともできない。これは身を暖める炭火でもなく、その前にすわれる火でもない。

被造物の存在は、創造主の存在を示します。

被造物に満ちたこの世の自然界は、創造主がそれらを計画する知恵のあるお方であることを示します。

創造主は、そのご計画を実行する力のあるお方です。

さらに、造られたものを維持する力もあるお方です。

宇宙とそこにあるすべてのものの複雑で緻密な様を考えれば、この自然界には創造主の必然性があります。そして、その創造主は、どんなことでもでき、すべてを知り、どこにでも存在されるお方でなければなりません。

ダビデは、その創造主が聖書の神であると認識しました。

ダビデは、神がご自身の被造物をとおして地上に生きる人々に語りかけておられると心得ていました。

パウロが使徒 17 : 22-31 でアテネの人々に語ったとき、彼は、創造から話し始めて福音へと話を進めました。

使徒 17 : 22-31

17:22 そこでパウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。 17:23 私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。

17:24 この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。 17:25 また、何かに不自由なことでもあるかのよう、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とお与えになった方だからです。 17:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とお定めになりました。 17:27 これは、神を求めさせるためであって、もし探し求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。 17:28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である』と言ったとおりです。 17:29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えるはいけません。 17:30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。 17:31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

ある有名な聖書説教者は言いました。「被造物における力ある神の御声は、福音における神の恵みの御声に続く道を備えるものである。」

2. 神は、律法の道徳的教えをとおしてご自身を啓示される。(7-11 節)

聖書の神は被造物をとおしてご自身を現されますが、被造物の知識だけでは人間の心の問題に答えられないと、ダビデはわかっていました。

では、生きていく上での道徳的、霊的な指針はどこから得ればよいのでしょうか。

私たちは、創造主なる神と実際に関係を築くことができるのでしょうか。

人間は、道徳の生き物であるため、生きる意味を求めます。

人は、霊の生き物でもあるので、創造主とつながり、友情を通わすことを求めます。

人には誰でも、自分では埋められない心の穴があります。

ダビデはこれに対する答えを知っており、7-11 節でその答えを私たちに伝えようとしています。

この個所で、ダビデは神の律法について 6 つの方法で語ります。

これは、神の律法がどのように役立つか理解する上で役に立ちます。

- a) まずダビデは、7 節で「主のみおしえ」と言います。
これは、ヘブル語で「トーラー」と言い、神の教えを意味します。
これは完全で、欠けたところがありません。
私たちのすべての必要について語り、私たちのたましいを生き返らせる、つまり回復させることができます。
- b) 次にダビデは 7 節で「あかし」という単語を使います。
ヘブル語の意味は、「神のご性質の証」です。十戒は当時このように呼ばれていて、神の律法の土台でした。これは、状況によって変わったりしないので、頼りになります。
神の真理は決して変わることはありません。

テモテ第二 3 : 15

3:15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。

- c) さらに 8 節では、「戒め」という言葉が使われています。
ここで使われたヘブル語の単語は、特定のかたちで表された神のみこころを指します。
これは、日常生活の具体的な事例に関する詳しい教えです。
旧約時代のユダヤ人には、食物をはじめあらゆる事柄について実際にどうすべきか具体的な教えがありました。
ダビデは、自分が信じていることが正しいという確信があれば、心に喜びがあると説明します。
あなたがクリスチャンなら、真理が教え伝えられているなら、心が喜ぶはずです。
- d) そしてダビデは 8 節で、「主の仰せ」について語ります。
ダビデはここで、私たちが神の掟に従うなら、私たちの良心が光を見ると言っています。
私たちがそむけば、私たちの心は鈍く頑なになります。
- e) 最後に、ダビデは神の律法が「恐れ」と「さばき」をもたらすと語ります。
神の律法は、人類に従順を求めます。それは、神の律法に背くならそれなりの結果がついてまわるからです。
またヘブル語の単語は、神のみことばに対する畏敬の念を示さなければならないことも示唆します。私たちは、神のみことばを軽んじてはいけません。
みことばを選び好みして、これには従って、これは無視するというようなことをしてはなりません。

神のみことばの啓示は、神ご自身の啓示なのです。

ダビデは、神のみことばを知り、それを求めることは、蜜よりも甘く、金を所有するよりすばらしいと語ります。

また、神の律法を守る人には大きな報いがあるとも語ります。

現代社会は、神の律法について教えてくれません。

被造物が隠されることはありませんが、人間は神の律法の知識を隠し、葬り去ろうとさえします。

世界中の国々で、聖書が禁書とされ、処分されています。
今日の中国では、聖書を完全に破壊することはできないと気づき、他の宗教と調和させるよう内容を変えさせようとしています。
もしかすると、これがイエスの再臨前に起こる世界統一宗教の始まりかもしれません。
この世が聖書を破壊しようとするあらゆる手段を使っても、神はご自身のみことばが完全に破壊されることをお許しにはなりません。

3. 神は、イエス・キリストをとおしてご自身を啓示される。(12-14 節)

ダビデは 14 節で、神が彼の力であり「贖い主」だと宣言します。
贖い主とは、囚われ人や奴隷を買受けてくれる人のことです。
ダビデは、イエス・キリストをとおしてなされる神の贖いのご計画を、なんらかのかたちでわかっていたようです。
彼は 12 節で、自分に罪があり、きよめが必要だと認めています。そして、隠れた罪をきよめてくださいと神に願い求めています。
ダビデは、罪によって囚われたり支配されたくないと考えました。
自分の心や言葉が、神に栄光をお返しするものであってほしいと願いました。

私たちは、聖書の神である主を天の父とする一対一の関係を築いていなければ、被造物や自然界に目を向けても、聖書や神の律法を読んでも、あまり役に立ちません。
私たちが神を知るためには、イエスを知る必要があります。
クリスマスはもう 9 週間先になりました。
マタイ 2 : 1-12 は、ダビデがこの詩篇で語っている内容を物語っています。
東方の博士たちは、神の星の導きに従いました。天からの特別なメッセージが彼らを導いたのです。
彼らは神のみことばを読み、ベツレヘムで王がお生まれになることを知りました。
それで、彼らはベツレヘムに行き、そこでイエスを見つけました。
3 つの神の啓示の要素がすべて用いられています。
私たちも、聖書片手に神の被造物を調べると、そこに必ずイエスが見えてくるでしょう。

ヨハネ 15 章で、イエスはぶどうの木とみなされています。
ヨハネ 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

ヨハネ 8 : 12 では、イエスは太陽とみなされています。
ヨハネ 8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

民数記 24 : 17 では、イエスは星とみなされています。
民数記 24:17 私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。

ヨハネ 1 : 29 では、イエスは小羊とみなされています。
ヨハネ 1:29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

神のみことばを手にするのは良いことですが、それを頭に入れるのはもっと良いことです。けれども、心に蓄えたみことばが私たちを変え、イエス・キリストを信じる信徒として成熟させてくれます。

適用

では、今日のみことばから、私たちは何を持ち帰り、今週どう実践すればよいでしょう。

1. まだクリスチャンでないなら、日本中にある神のすばらしい被造物のことを考えてみてください。
もうすぐ紅葉の秋になります。半年経てば、桜の季節も来ます。
日も昇りますし、目を向けるべき大自然があります。これらすべてを誰が造ったとあなたは思いますか。
聖書の神がこの地球と宇宙を造られたと認めるまで、聖書で神があなたに語られることばかりから益を受けることはないでしょう。
世界の創造主なる神に心を開いて、この神を迎え入れましょう。聖書から、神ご自身について教えてくださるようお願いしてください。
ヨハネの福音書とローマ人への手紙を今日は無料でお配りしています。
また、一緒に祈ってくれる人もいます。
今日、うつむいたままで帰らないでください。神に、ご自身を示してくださいと祈り求めてみてください。
自然に目を向け、聖書を読み、イエスのことを考えてみてください。
2. クリスチャンの人は、イエスに感謝すべきことがたくさんあります。
けれども、私たちの課題はイエスに仕えることです。
あなたは、神の祝福の器になっていますか。
自分の人生を完全に神にゆだね、与えられる働きについて神にお任せしているなら、もうすでにあなたは神の器です。
神は私たちの能力を求めておられるのではありません。
私たちが自分を差し出すことを求めておられます。

コリント第一 15 : 58

15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。

OIC という教会における新しい一年を始めるにあたり、私自身を含め全員に課題を出したいと思います。主の働きをしましょう。

イエスのために働くことは誰にでもできますが、主の働きをするには、人生における神のみことごとご計画に完全に明け渡すことが必要とされます。

私たちが神の御手にある謙虚な器となることを求めますように。神が私たちを豊かに祝福してくださいますように。聖書の神は、私たちの偉大な創造主、贖い主であります。

アーメン。